©沖縄タイムス　2016年02月23日　朝刊30面　記事数：1/1　＜1/1枚＞
ここにいるよ　沖縄子どもの貧困（１７）＝第２部　親は・・・（５）　リカ（上）　子に心臓病と自閉症

子に心臓病と自閉症

ここにいるよ　沖縄 子どもの貧困 ⑰

第２部 親は…〈5〉

一人で育児「なぜ自分だけ」

リカ（上）

夕飯どき。台所に立つリカ(29)の足にけ2歳の次女が「マーマー」と泣きながら、まとわりつく。居間では、6歳の長男と4歳の次男が大声を上げながらローテーブルからジャンプを繰り返している。小学5年生の長女(11)が同じテーブルで宿題をしているが、うるさくて集中できない様子だ。

「テーブルに乗らないで」「おねえちゃんの邪魔しないで」「危ない！」。叫び続けるリカは「毎日が戦争」と苦笑いだ。

リカは現在、生活保護を受けながら、自閉症と軽度の知的障がいがある長男と、先天性心疾患のある次男を含む4人の子どもを一人で育てている。

■■■

18歳で結婚、長女を出産した。建設業の夫は雨が降ると仕事がない上、少ない給料が飲み代に消えてしまうこともあった。リカが昼夜働くようになって生活も気持ちもすれ違い、離婚した。

3年後に15歳年上の男性と再婚し、長男と次男に恵まれたが、夫のDVに苦しめられた。「水のように」酒を飲み、一日に何度も電話してくるなど独占欲が強かった。長男が夜泣きすると「うるさい、黙らせろ」と怒鳴り、リカを殴った。やがて長男にも手を上げるようになった。

離婚し、DVなどを受けた母子を受け入れる母子支援施設に入った。次女を身ごもっているのが分かったのは、施設に入った後だった。

■■■

長男は赤ん坊のころから、よく泣いた。リカが離れると泣くので、2歳ぐらいまでリカは常に抱っこしたまま家事をこなした。

施設の職員の勧めで検査を受け、3歳のとき、自閉症と軽い知的障がいがあると診断された。

「やっぱり」と納得したと同時に、「ふつうに育つのだろうか」という不安が襲った。重い心臓病の次男もいる。「どうして自分だけが子育てでこんなに苦しい思いをしなければならないんだろう」と思った。

長男の泣き声は、夫の暴力の記憶もよみがえらせた。苦しみがピークに達したとき、リカは、痛いと叫ぶ長男を泣きながらたたき続け、止まらなかったことがある。

このことをきっかけに施設内で「ペアレントトレーニング」を受け、子どもへの対応の仕方を学んだ。

次男は、通常二つある心臓の「心室」が一つしかない病気で、生後3カ月から、2歳までに大きな手術を3回も受けた。

今では走り回るほど元気だが、人工血管を着けており、血液をサラサラにする薬を常飲する。その影響で少し頭をぶつけただけでも大きなこぶができたり、腫れたりするので、目が離せない。

さらに肺や気管支の機能も弱く、ぜんそくの持病もあり、鼻にチューブを装着して、酸素を吸入する酸素療法を続けている。

障がいのある子ら4人の子育てで忙しいリカの生活に最近、さらに兄の看護が加わった。

（文中仮名）

4歳の次男は、心臓病やぜんそくのため、酸素療法を続けている

〈「子どもの貧困」取材班・高盛陽子〉＝火～木曜日掲載

記事に関するご意見、情報をお寄せください。
ファクス：098(860)3483　メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp